【概要】矢吹町三城目地区遊水地対策協議会講演会（令和7年12月6日）

○ 3D映像や模型用いて遊水地の効果・各施設の役割等を説明し意見交換を実施。
○ 講演や意見交換会（パネルディスカッション）の内容はグラフィックレコーディングによりリアルタイムで視覚化し、議論を深化。

①開会挨拶



堀井会長
遊水地の完成イメージを確認しながら、遊水地の役割・効果を広く知ってもらうきっかけに。



矢吹町 蛭田町長
遊水地の整備は流域全体と取り組む流域治水という大きな考えの１つであり、流域全体で取り組むことが必要。5年延長したこともあり今後しっかり議論。

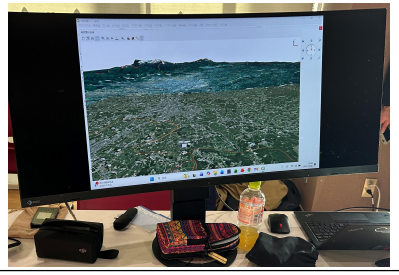


三村 福島県議会議員
遊水地整備について理解を深め今後よりよいものにするきっかけに。

②講演・バーチャル体験・模型体験

福島大学 川越教授
これまでリスクの可視化は進めてきたが、今後は将来像の可視化に向けた努力（工夫）が重要。
可視化から議論を深めていきたい。





福島河川国道事務所
３D映像を活用して遊水地の各施設の役割等を説明。



③意見交換会（パネルディスカッション）



Q.流木は想定されていますか？
Q.遊水地内の利活用の方法は何が有効的か（太陽光発電システムフロート式の検討は？
Q.インドネシアでは500人を超える死者が出ている水害。これから大型台風で遊水地を広げる可能性はあるか。
Q.阿由里川が阿武隈川の水を呑み込めなくて集落にあふれることは？
Q.住んでいる人は模型を見て何を確認する？
Q.橋梁の設計について。景観によい吊り橋式（要確認）？
Q.周囲堤が決壊した場合、どれくらい被害が広がるかシミュレーションはされていますか？
⇒（福島河国）していない。規模にもよるが結果しないように設計。
Q.浜尾遊水地の効果についてお願いします。
⇒（福島河国）令和元年台風の際に須賀川市にて30cm程度水位低下。容量は東京ドーム２個分（260万m3）。

